

## 患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表  
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの(株)フジキン総務部部长兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライブインゲスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第55回 地域の集まりで感じたことからの展開

地域の地区振興センターで開催された「議会の一で開催された」議会の広場 みんなの意見でまちづくり」の集いに参加した。地区の市民20名と市会議員4名が集まった。前半は市議員による議会報告、後半はグループミーティング。私は事前に用意していた「在

## “在宅問題”市議会でも取り上げて

宅問題」について市議員に問うた。何故ならこ

2年ほど益田市市議会での問題をだれも質問していなかったからだ。しかし空しい返事しか市議員からは返ってこなかった。近い将来、看護する側か、看護される側かの環境がやってくるの

にあまりに意識が低すぎる。折しもその後、介護施設を運営している病院とクリニックの会が設立し周年記念シンポジウムを開催した。テーマは「長寿の秘訣」。「在宅問題」にまで踏み込めない地域事情があるらしい。今後継続して市民に意識づけをしていくらしい。遅くてもいい。街をあげて「在

宅問題」に挑戦してほしい。

「第14回在宅医療推進フォーラム いのちのバトン」地域が想いを紡ぐ」が来る11月23日、東京ビッグサイト国際会議場で開かれるが、私も参加に向け準備している。

先週浜田市で開かれた「公聴会」にオブザーバーで参加した際、健康福祉部Y氏と話しをする機会があり、在宅医療推進フォーラムのチケットが1枚余っていることを伝えたら、早速医療政策課スタッフの参加が決まった。在宅医療を担当している方々がこのイベントすら知らないことに驚いた。患者の私でも知っているのに。もっと積極的

に情報は集めるべきだと思う。

これまで何度も在宅医療推進フォーラムに参加しているが、島根人に出会ったことは一度もない。今回初めて私の知人の他県の在宅医たちと島根県行政を繋ごうと思っており、今後の地域の在宅医療推進に少しでも役立つことが出来ればと考えている。特に市長、区長、町長と医師会長が登壇して、全国から集まって来る1000名を超える参加者の前で、地域の在宅医療推進に関する話しをするステージは今回もある。

これを観て、島根県の各地も奮起して欲しいものだ。